

<調査概要>

第5回地域版SDGs調査2023は、15歳以上の男女を対象に、2023年6月8日から12日にかけてインターネットで調査を実施し、都道府県の住民をそれぞれ1100人ずつ計51,700人を回収し、調査時点で移転などの理由によりその地域に居住していない人を除く計50,517人の有効回答を得た。調査対象は47都道府県。幸福度、生活満足度、愛着度、定住意欲度という持続指標と、魅力度、自慢度、魅力項目というロイヤルティ指標、そして住民の悩みと、地域の課題に関する設問、各都道府県でのSDGsの取り組み、地域企業のサステナビリティ貢献度などの評価項目を設けた。

なお、前年は「地域版SDGs調査」と「地域の持続性調査」として別個に調査・発表していたが、今回は従来通り両調査を統合して実施した。

- 調査方法 インターネット調査
- 調査対象 47都道府県の登録調査モニター(15歳以上)から、居住する都道府県別に抽出
- 総回収数 計51,700人(各都道府県から1,100人ずつを回収)
- 有効回答数 計50,517人(各都道府県の回答者数は1,056~1,087人)
- 調査時期 2022年6月8日~6月12日
- 調査項目 持続指標: 幸福度、生活満足度、愛着度、定住意欲度
ロイヤルティ指標: 魅力度、自慢度、魅力項目(自然、交通など計26項目)
住民の悩みと課題: 低収入など悩み46項目、少子高齢化など課題50項目
SDGs指標: 認知度、都道府県別SDGs評価、ゴール別評価、取組意欲
持続的行動: 消費行動、環境行動、社会行動から計20項目
地域企業評価: 認知度、好感度、サステナビリティ貢献度
回答者属性: 年齢、性別、婚姻、子供の有無、世帯年収、居住形態など

<調査報告書>

・報告書冊子(価格は税込)

基本セット: 99,000円 総合報告書+個別報告書

総合報告書: 68,200円 A4判 約220ページ(データCD別売)

個別報告書: 48,400円 A4判 約30ページ(データCD付)

オプション: 総合報告書データCDは22,000円(調査結果のデータをExcel形式で収録)

・電子データ(価格は税込)

データバック47(CD): 396,000円 47都道府県すべてのデータを収録

個別調査パッケージ: 385,000円~ ご指定の市について追加調査を実施

・報告会・セミナー(価格は税込、交通費、報告書別途)

調査結果を基にセミナーまたは研修会を実施: 165,000円

<ブランド総合研究所の会社概要>

「都道府県・魅力度ランキング」など地域・自治体の評価指標として全国で利用されている「地域ブランド調査」を毎年実施する地域や企業の調査およびコンサルティングを行う専門企業です。同調査以外にも、地域ブランドに関する調査やシティブロモーションなどの戦略立案を実施しています。また、英国ギネスワールドレコーズの公式パートナーとして各地でギネス世界記録への挑戦サポートも行っています。

- 本社 東京都港区虎ノ門1-1-20 虎ノ門実業会館3階(〒105-0001)
- 代表者 代表取締役 田中章雄
- 資本金 2500万円
- 設立 2005年11月

<問合せ先(メディアおよび読者とも)>

株式会社ブランド総合研究所(担当 戸田)

Tel. 03-3539-3011(代) Fax. 03-3539-3013

E-mail: sdgs@tiiki.jp

ニュースリリース

第5回 地域版SDGs調査2023

都道府県SDGsランキング1位は山形県

～ 地域企業のサステナビリティ貢献度1位は平和堂 ～

2023年8月17日

株式会社ブランド総合研究所

株式会社ブランド総合研究所は、このたび都道府県ごとの住民に対し、地域でのSDGsへの取り組み状況の評価する大規模調査「第5回地域版SDGs調査2023」をインターネットにて実施しました。その結果、都道府県のSDGs取組評価1位は山形県となりました。同県の評価指数は55.1点で、前年の52.4点から2.7点の上昇となり、順位は前年5位からの上昇となり、初の1位となりました。

2位は前年9位だった長野県で53.8点で、前年より2.6点増。順位も9位からの大幅上昇となりました。一方で、前年1位だった鳥取県は53.4点で4位、同2位だった福島県は53.5点で3位となりました。いずれも順位は下がったとはいえ、引き続き高い評価を得ています。

この調査は、各都道府県の住民による、地域でのSDGsへの取り組みを評価する調査として実施しました(調査対象者:各都道府県の住民約1000人、有効回答数:50,517人、調査期間:6月8日~12日)。

設問内容としては、各地でのSDGs取組評価のほか、17ゴール別の評価、SDGs取組意欲、住民自身の地域でのサステナブル行動などから構成しています。さらに、地域に本社があったり、地域が創業地だったりする有力企業840社(各都道府県20社前後)について、認知度、好感度ともに、「環境や地域・社会の持続性を高めるような取り組みを行っているか」(サステナビリティ貢献度)についても評価しました。

◆佐賀県、岩手県、秋田県など急上昇

SDGs評価の設問は、「お住いの都道府県は、SDGs達成のために積極的に取り組んでいると思いますか」という設問に対し、「よく取り組んでいる」、「少し取り組んでいる」、「どちらともいえない」、「あまり取り組んでいない」、「全く取り組んでいない」の5段階で回答してもらった結果を、それぞれ100点、75点、50点、25点、0点の係数で加重平均したものを「SDGs評価(点)」としました。

都道府県・SDGs評価ランキング

全国順位	23年	22年	都道府県		SDGs評価(点)	
			23年	22年	23年	22年
1	5	▲	山形県	55.1	52.4	
2	9	▲	長野県	53.8	51.2	
3	2		福島県	53.5	52.9	
4	1		鳥取県	53.4	54.4	
5	7	▲	熊本県	53.3	52.1	
6	6		沖縄県	52.7	52.3	
7	33	▲	佐賀県	52.5	47.9	
8	3		宮崎県	52.5	52.7	
9	4		福井県	51.7	52.5	
10	25	▲	岩手県	51.6	48.8	
11	30	▲	秋田県	51.4	48.2	
12	21	▲	山梨県	50.5	49.2	
13	20	▲	東京都	50.5	49.3	
14	11		石川県	50.1	50.9	
15	22	▲	大分県	50.0	49.1	
16	15		広島県	49.8	49.8	
17	12		鹿児島県	49.7	50.1	
18	24	▲	岡山県	49.5	49.0	
19	35	▲	山口県	49.5	47.7	
20	17		静岡県	49.5	49.7	
47都道府県平均				49.4	49.1	

山形県や長野県以外に SDGs 評価の点数や順位が上昇した都道府県として、佐賀県が 33 位から 7 位に、岩手県が 25 位から 10 位に、秋田県が 30 位から 11 位などがあります。

(21 位以下の順位および前年データは同調査の特集ページに掲載 <https://news.tiiki.jp/sdgs/>)

◆地域で取り組まれている SDGs ゴール

「SDGs に設定されている以下の 17 のゴールの中で、△△県で取り組まれていると思うものをお選びください(いくつでも)」という設問に対し、ゴール 1「貧困をなくそう」、ゴール 2「飢餓をゼロに」など SDGs の 17 ゴールを示し、該当するものをすべて選んでもらった(複数回答。「△△県」には居住している都道府県名を表示)。

取り組んでいるという回答が多かったのは、ゴール 11「住み続けられるまちづくりを」で 32.6%(前年は 31.6%)となった。続いてゴール 3「すべての人に健康と福祉を」で 30.7%(前年は 29.4%)、ゴール 14「海の豊かさを守ろう」26.7%(前年は 21.2%)となり、前年と上位の順位は変わらなかったが、前年よりも回答率が上がった結果となった(下の表参照)。なお、それぞれのゴールで最も評価が高かった都道府県も併記したが、項目によっては 47 都道府県平均と最高点との間に 2 倍以上の差がある。その項目としては「1. 貧困をなくそう」(最も取り組まれているのは沖縄県)、「6. 安全な水とトイレを世界中に」(熊本県)、「産業と技術革新の基盤をつくろう」(愛知県)、「平和と公正をすべての人に」(広島県)がある。

17 のゴールのすべてが前年の結果より「取り組まれている」との回答率が上がっている一方で、「取り組んでいると思うものはない」との回答は 27.8%で前年の 29.7%より減少している。

ゴール	都道府県平均 (%)		最も高い都道府県	
	23 年	22 年	%	都道府県名
1 貧困をなくそう	16.8	14.0	44.8	沖縄県
2 飢餓をゼロに	11.1	8.8	19.0	熊本県
3 すべての人に健康と福祉を	30.7	29.4	39.9	長野県
4 質の高い教育をみんなに	17.5	14.7	26.8	長野県
5 ジェンダー(男女)平等を実現しよう	17.7	16.2	32.8	東京都
6 安全な水とトイレを世界中に	16.2	13.7	34.6	熊本県
7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	18.8	16.3	31.8	福島県
8 働きがいも、経済成長も	15.3	12.4	22.2	熊本県
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12.9	9.6	26.3	愛知県
10 人や国の不平等をなくそう	10.3	8.9	18.8	沖縄県
11 住み続けられるまちづくりを	32.6	31.6	41.4	長野県
12 つくる責任、つかう責任	11.2	9.1	17.0	熊本県
13 気候変動に具体的な対策を	10.6	8.1	18.3	東京都
14 海の豊かさを守ろう	26.7	21.2	48.4	沖縄県
15 陸の豊かさを守ろう	16.9	12.8	29.1	岩手県
16 平和と公正をすべての人に	11.8	10.0	38.7	広島県
17 パートナリーシップで目標を達成しよう	8.1	6.1	13.4	東京都
— 取り組んでいると思うものはない	27.8	29.7	35.9	—
17 項目の平均	16.8	14.3	—	—

◆地域企業のサステナビリティ貢献度、平和堂が初の1位。大山乳業、シャトレーゼが上昇

各地域での SDGs の取り組みは、その地域に根付いた企業と住民がプレイヤーとなって、いかに地域ぐるみで取り組むかが重要である。そこで、この調査では各都道府県の住民に、その地域に関係がある企業に対して、「環境や地域・社会の持続性を高めるような取り組みを行っている」と評価できる企業を選んでもらった。その結果である「サステナビリティ貢献度(%)」の上位ランキングは以下のとおり。

サステナビリティ貢献度が 1 位となったのは滋賀県を中心に総合スーパーなどを展開する平和堂。同社では、鳩のマークにちなんで「奉仕のハト」、「創造のハト」、「感謝のハト」、「友愛のハト」、「平和のハト」として、サステナブルな取組を分かりやすく整理している。

2 位の大山乳業は鳥取県で生産、処理、販売を一貫体制で行う酪農専門農協で、「白バラ牛乳」が人気を博している。酪農家とともに乳牛の健康管理や飼育環境づくりに努めているほか、大山と地元海岸の清掃活動などの環境保全活動も実施している。

3 位のヨークベニマルは福島県を中心に近隣 5 県でスーパーマーケットを展開しており、高齢者のために移動スーパー「ミニマル」を展開している。

ランキングの上位には各地域で多くの店舗を運営している流通・飲食業が多く含まれるほか、電力会社も多い。また、全国的に知名度の高いレジャー企業や製造業も多い。

全国順位	企業名		都道府県	業種グループ	貢献度(%)	
	23 年	22 年			23 年	22 年
1	4	平和堂	滋賀県	流通・飲食	43.2	39.4
2	8	大山乳業	鳥取県	食品・化学・薬品	40.6	32.9
3	3	ヨークベニマル	福島県	流通・飲食	39.4	40.8
4	1	トヨタ自動車	愛知県	機械・電機・電子	38.5	44.0
5	7	大塚製薬	徳島県	食品・化学・薬品	36.5	33.7
6	6	サニーマート	高知県	流通・飲食	34.9	34.8
7	16	シャトレーゼ	山梨県	食品・化学・薬品	32.8	29.1
8	13	小岩井乳業	岩手県	食品・化学・薬品	31.8	30.7
9	20	アドバンチャーワールド	和歌山県	IT・サービス・他	31.4	27.6
10	144	オリエンタルランド	千葉県	IT・サービス・他	31.0	15.6
11	10	イオン東北	秋田県	流通・飲食	30.2	31.5
12	63	中部電力	愛知県	エネルギー	29.0	20.3
13	5	ジャパネットたかた	長崎県	流通・飲食	27.5	38.0
14	41	四国電力	香川県	エネルギー	27.4	23.1
15	14	オークワ	和歌山県	流通・飲食	27.0	30.3
16	17	UBE(宇部興産)	山口県	機械・電機・電子	27.0	28.8
17	37	中国電力	広島県	エネルギー	26.5	23.4
18	2	ハウスデンボス	長崎県	IT・サービス・他	26.1	41.3
19	9	サンエー	沖縄県	流通・飲食	25.9	31.8
20	21	アイリスオーヤマ	宮城県	機械・電機・電子	25.9	27.4
21	18	霧島酒造	宮崎県	食品・化学・薬品	25.8	28.8
22	15	日亜化学工業	徳島県	食品・化学・薬品	25.5	30.0
23	183	沖縄セルラー電話	沖縄県	IT・サービス・他	25.1	13.7
24	19	再春館製薬所	熊本県	食品・化学・薬品	24.9	28.4
25	28	ヤマザワ	山形県	流通・飲食	24.8	26.1
840 社平均					9.0	9.3